

# 自分の頭で考えよ

経済学部長 小村 衆 統

新入生諸君、おめでとう。君達の今の気持ち、外の景色と同じように、春爛漫といったところだろう。これからの大学生生活において、青春を謳歌されることは大いに結構だ。しかし君達は経済学部で属するのだから、在学中に経済あるいは経営を見る眼力・分析能力を出来るだけ養うよう努力してもらいたい。学部には、そのためのいろいろなメニューが

用意されており、その選択はほとんど君達にゆだねられている。君達はこれまでたどってきた道に比べて、はるかに自由な道に入ったのである。それだけ君達自身の自覚が必要となる。

今日、いろいろな情報が溢れていて、容易に手に入る。それらを追いかけてばかりいると、自分自身は右往左往しなければならなくなる。そこで面倒だとばかり、大勢に安易に乗っかってしまう。大勢に乗っかっていれば何んとなく安心だから、それがどういふものかを考えようとしなない。これは真に学問する態度ではない。大勢に乗ることがかならずしも悪いというのではない。その内容や意義を自分自身で理解し、認識しておくことが大切である。

情報過多の時代ゆえに、自身の琴線に触れる情報を見分け、それについて自分の頭で真剣に考えることが一層大切である。そうすることによってこそ創造の芽を見出せる。どんな小さな芽でも、それを生み出せれば、君達は真に学問をしたことになる。「初めが大事」という。心引き締めて、出発していただきたい。

## 悔いなき大学生活

経済学部4学年

長 田 豊

新入生のみなさん、入学おめでとう。ふり返ると今まではやりたい事を我慢してきただろう。ただひたすら勉強すれば認められてきただろうが、これからは自分で認められる何かを探してほしい。故に何にでもトライしてみべきである。時々、受験の名残から離れられずに殻に閉じ込められる人がいるが、できれば、積極的に活動するほうが望ましい。これから社会に出ていくのであるから、人間関係を特に大事にすべきである。恥も外分も捨て、喜怒哀楽をぶつけられる友をつくることをすすめたい。誰にでもいい顔をするから、素直になれなくなると思う。誰かがやってくれるというあまえた心を持たないでほしい。先輩として言っておきたい事はこれ位であるが、何をやるにも目的意識をもってほしい。受験という目的あつてこそ悔いなき人生を送られたのであるから、是非心に留めて置いてもらいたい。目的さえもっていれば、後悔しない大学生活を送れることだと思ふ。悩みがあれば僕を頼ってきてほしい。



比治山を背景に経済学部正面玄関を望む